

保護者の皆様

本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。
今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思いますので、今後とも何卒宜しく願ひ申し上げます。

芦原小学校長 中嶋 英雄

令和4年度 芦原小学校学校評価書

▲は目標指数を達成できなかった項目

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健康・安全	家庭と連携し、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」の定着に取り組む	教職員	児童や家庭に啓発を積極的に行った	90	100	・今年度は、早寝の大切さについて理解できるように、睡眠についての学習を実施した。1～4年生は外部講師を招き、睡眠についての学習授業を行った。授業は保護者に公開するとともに、YouTubeでの配信も行ったことで、児童のみならず保護者に対しても睡眠の大切さが意識されるようになったと考えられる。	・次年度以降も外部講師による睡眠の大切さを学ぶ授業を実施する。また、年間3回「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」週間を設定し、チェック表の記録を行う。	・外部講師による授業やYouTubeでの配信により、睡眠の大切さが児童だけでなく保護者も把握していると思われる結果である。児童の結果は令和2年からほぼ安定している。人の体内時計の周期は24時間より長めにできているため、長めの体内時計を毎日早めていかないと、ずるずると生活が後ろにずれてしまう。統計では早寝早起きの子どもに不登校の子どもはほとんどいないとのことである。引き続き宜しく願ひしたい。 ・睡眠についての学習に継続して取り組まれているのは大きな成果だと思う。家庭への啓発の手立ても講じられているのが素晴らしいと思う。また、食生活改善推進員の方との取組もあったと聞いている。評価結果がやや低い児童の定着を図るために、次年度も外部講師等による学びの場が続くとよいと思う。 ・授業の様子をYouTubeで配信するということに驚いた。 ・学校でも「いただきます」や「ごちそうさま」の意味について話をしてほしいと思う。
		児童	「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」ができている	90	83▲			
		保護者	できていると思う	80	87			
	家庭と連携し、情報モラル学習とスマートルールの啓発を行う	教職員	きめられた約束事の指導を熱心に行った	90	100	・情報モラル教育・スマートルールについては、家庭と連携し、継続的に定着を図ることができた。 ・感染症対策については、児童一人ひとりが対策の方法や意義を理解して行動することができている。 ・防災訓練については、今年度、不審者対応や地震後の津波など、今まで実施していなかった様々な状況を想定した訓練を実施することができた。	・情報モラル教育とスマートルールならびに感染症対策については、今後も児童及び保護者にその重要性を周知していく。防災避難訓練は様々な状況を想定した実践的な訓練を実施することで、児童一人ひとりの危険から身を守る力を高めていく。	・スマートフォンなどは、使い方を誤れば非常に危険なツールになる可能性もある。実際にコミュニティサイト等における被害数や、SNSに起因する被害児童・生徒数は増加傾向にある。情報モラル学習やスマートルールの啓発は、導入に合わせ令和3年より実施されており、児童、保護者同様に目標を上回っている。 ・情報モラル教育、スマートルールに関しては、改善策・向上策にある「継続が大切」に同感する。日々の感染症対策の指導もご苦労が多いと思う。 ・防災避難訓練では、毎年工夫し、新しい想定で内容に変化をもたせた取組で素晴らしいと思う。これからも児童自身の判断力向上に努めて欲しい。 ・約束を守れたことがよく表われた数値であり、素直な人格の子が多いのだと感じた。
		児童	きめられている約束事をいつも守っている	95	97			
		保護者	約束事をいつも守っていると思う	80	93			
	業間活動（マラソン・縄跳び）、運動遊びを充実する	教職員	児童への意識づけを十分行った	90	100	・ほとんどの児童がマラソン大会やなわとび大会に向けて意欲的に取り組む様子が見られる。今年度は、学校ホームページやFacebookで活動の様子を配信し、保護者にも意欲的に取り組む様子が見えたと考える。	・今後も業間活動を継続して行うとともに、児童の意欲的な姿を積極的に保護者や外部に発信していく。	・コロナ禍の影響の中でこの3年間、目標を上回っているのは、活動の様子を工夫して発信していることなどの工夫によると思われる。 ・業間マラソン、校内マラソン大会で子ども達の姿を見ていると意欲的に取り組む様子が伝わってくる。保護者の評価の向上からも日常の活動を伝える新しい取組が効果的だったと思われる。 ・マラソン大会、なわとび大会と順位がつく中で、自分はんばったと思えるような手立て（支援）をお願いしたい。
		児童	業間マラソンや体力づくりに熱心に取り組んでいる	95	96			
		保護者	意欲的に取り組んでいると思う	80	88			
確かな学力	学びを支える学習ルールを身につけ、基礎学力の定着と向上に努める	教職員	漢字や計算の練習を毎日実施し、その点検を行っている	90	92	・毎月のマスターテストに向けて漢字や計算の練習に熱心に取り組む児童が多い。ほぼ毎日家庭学習に漢字や計算練習を取り入れることで定着が図られた。 ・漢字や計算の学習は、学年によって質や量に違いがあり、マスターテストの実施方法を学年に応じて工夫する必要がある。	・児童の意欲向上を図るため、マスターテストの満点賞は継続する。 ・マスターテストは、学年に応じてその内容や年間の回数の見直しを行う。	・基礎学力向上の評価は全体的に高いようであるが、それでもマスターテストを学年に応じたものに工夫し改善を図る先生方の姿勢に感心した。 ・基礎基本を確実に身につけることは大切であるとこれからも指導して欲しい。
		児童	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいる	90	88▲			
		保護者	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいると思う	80	91			
	国語科教育を核として、言葉の力や思考力・表現力の育成等を行う	教職員	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている	100	100	・国語科の研究を通して教員が教材研究や授業研究を熱心に行った結果、児童にとって分かりやすく楽しい授業が構築できた。	・教員同士互いに授業を参観し、評価し合うことで、さらなる授業改善を行う。	・授業を参観させていただいたが、大変楽しい授業であった。「ゆとり教育」で育ってきた若い人の「言語表現力」の低下が問題となっている。その理由は、生活の中で生きて働く基礎的な知識や技能が身に付いてなく、目的意識や相手意識が弱いことである。「言語表現力」は、伝えたいことを適切な方法で表現できたという成就感が伴ってこそ確かな力となると思う。日本国内に留まった国語力ではなく、世界の各国の人々と交流できる言葉の力（言語力）として日本語の能力を充実して欲しい。 ・国語科教育の研究では、先生方自身が教材研究や授業研究に注力できていると感じていること自体がすごいことだと思う。さらなる授業改善に取り組むということなので、その成果の発表が楽しみである。 ・毎年、『ふたば』を購入させて頂いているが、表現の豊かさ等が伝わってくる。親としては同学年の児童の作品を読んでみたいと思う。 ・国語教育を中心に研究されたとのこと。国語に対して児童は好き嫌いがあるがゆえにこの結果かなと感じた。
		児童	授業が分かりやすく、楽しい	90	89▲			
		保護者	日々の学習内容をよく理解していると思う	80	89			
	全ての教科でICT機器の活用に取り組む	教職員	話し合い活動や発表活動を計画的に実施し、見直しも適宜行っている	90	87▲	・タブレット端末を使用することで、互いの考えが交わり、友達との意見に聞いたりすることが、しっかりできている。	・ICT機器の特性を吟味し、効果的に授業に取り入れていく。その中で、アナログとデジタルのバランスを考え、どちらかに偏り過ぎないようにする。 ・低学年においては書字指導を大切にしてい	・学校のICT整備が先生の業務負担にならないか、またリテラシー問題も危惧している。初めての取り組みと思うので、子どものインターネット利用についての注意を保護者向けに願ひしたい。 ・ICT機器の活用が子ども達の意欲につながるという成果があった上に、アナログとデジタルのバランスという課題を捉え、さらに改善を図るということで楽しみである。国語科教育による思考力、表現力向上とも併せた取組で、教職員の評価が上昇するのを期待している。 ・タブレット端末を使うと自分の意見を伝えることができる児童もいる。少しずつであっても発言する力を養って欲しいと思う。 ・ICT化の時代に入り、これからも基本の学びを大切にしてい
		児童	自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりすることが、しっかりできている	90	92			
		教職員	ICT機器（パソコン、電子黒板、タブレット）を活用した授業を行っている	90	93			
		児童	タブレットを使って学習することが楽しい	90	97			
	朝読書、読み聞かせ、家庭読書の日など読書活動を充実し、本を手にする機会を増やす	教職員	読書活動の習慣化を図る働きかけを十分行っている	90	93	・学校では、朝読書の時間やちょっとした隙間時間等に読書に親しむ児童の姿が見られる。しかし、家庭では読書の習慣がなかなか身につかないのが現状である。	・1・2年は、毎週末、宿題として「読書」に取り組む。3年生以上は、毎月の「家庭読書の日」に読んだ本の写真と感想を提出する。 ・年に1回（11月）「家庭読書の日」を「親子読書の日」とし、家族で読書に親しんでもらえるようにする。 ・1・2・3年生の読み聞かせは継続し、4・5・6年生はブックトークを取り入れる。	・全国的に家での読書量が減少している。スタンブライー、ページポイント加算、などいろんな工夫があるが、やはり親に読書習慣があるかにもよる。今の子どもは忙しすぎる。親が読書の必要性を認識して欲しい。 ・読書活動は、毎年低い評価がみられているが、児童を取り巻く現代の家庭生活を思うと改善が難しい課題の一つで、日常的に家庭読書をするということまで期待するのはハードルが高いと思う。改善策に示されたような「家庭読書の日」「親子読書の日」という方法を地道に続けることが大切だと思う。ブックトークはテーマ選定や準備が大変だが、紹介された本をすぐ手にしている子ども達の姿を見ると嬉しくなる。頑張ってください。 ・我が家ではプロ野球のシーズンが開幕すると新聞記事に注目させる。子どもが興味ある記事に親が声掛けする努力も必要ではないか。 ・昨年度も同様かと思うが、読書離れが進んでいるのかと懸念する。家庭教育の難しさは、どの時代も同じだと思われる。
		児童	学校や家で（マンガや雑誌以外の）本を毎日読んでいる	80	50▲			
		保護者	学校や家庭でよく本を読んでいると思う	80	40▲			

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数 (%)	結果 (%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心・特別支援	「いつでも、どこでも、何度でも」を合言葉に「明るく元氣なあいさつ」を推進する	教職員	挨拶や返事の指導を意図的・計画的に行っている	90	100	・あいさつや返事は、言われたら返す、イベントや行事ではする、パターン化された場面では定着してきている。しかし、「進んで」「きちんと」はできていないと感じている児童がいる。積極的に挨拶や返事をするものの価値観と、あいさつや返事は強要するものではないという価値観、そしてコロナ禍のマスク姿や必要以上に大きな声は出さない方がよいなどの風潮が重なり、「聞き取れない」「黙っている」言動への指導が曖昧になっていた面があったのではないかと思います。	・あいさつや返事をきちんとすることで、お互いが気持ちよくなること、集中して聞く態勢がとれることや、場自体も適切な一体感や敬意を表す雰囲気を作られることの価値観を全員が揃える。そして、日々の対応や学級経営、全校集会や行事などにおいて、「あいさつ」「返事」はいつも表現することが基本とした指導を全教員が同じ認識で取り組む。	・かつて自分が小学生だったころは自らすすんで近所の人や他人に挨拶をしていた。そしてそれを褒められたりして気分よくなっていた。もちろん褒められたい一心のみでやっていたわけではなく、やはり挨拶を交わすことによる心地よさからやっていた部分が大きかった気がする。それがいつからか大人になるにつれ「この人は挨拶返してくれるだろうか」とか「この人は挨拶すべき人物だろうか」など余計な思いを巡らせるようになり、遂には小学生に先手を取られるまになってしまっていた自分に気づかされた。 ・挨拶に関し「進んで」「きちんと」に児童自身が厳しい評価をしていることを肯定的に受け取りたい。イベントや行事ではできても、普段の生活や学校外、家庭ではできていない、本当の意味で身についていないと感じていることが向上への一歩ではないか。先生方が課題と捉えたことに繰り返し取り組んでいただきたいと思う。 ・自発的に挨拶ができるよう、挨拶できる喜びということに重点を置いて欲しい。 ・「おはようございます」をしっかり言えるのは素晴らしい。
		児童	進んであいさつをしたり、きちんと返したりしている	95	94▲			
		保護者	進んで挨拶したり、しっかり返事をしたりしていると思う	80	87			
	良好な人間関係を築く力や自己肯定感を培い、いじめと不登校の未然防止に努める	教職員	いじめ防止等の対策にしっかり取り組んでいる	100	100	・日頃の関わりや定期的なアンケート実施を通して、児童保護者の困り感、不安なことについては、全教員が迅速、丁寧に対応することを徹底していた。その後の対応についても、定期的なアンテナ会で職員全体で共有して行ったり必要に応じてSC、SSWにつないだり、全体で取り組んでいることで、高数値が維持できていると思われる。	・定期的ないじめアンケートや相談旬間は継続して実施していく。また、次年度も引き続き、信頼関係の構築や自己肯定感を育てるために、ピアサポート活動（仲間づくり）などのプログラムを道徳や学活の時間に積極的に活用していく。	・不登校の子どもは、中学生でも不登校になりやすい。早寝早起きができれば、不登校は無くなる。学校生活において些細な摩擦はあるもので、砥石となる学びだと思う。この3年間を通して、目標が達成されている。つまり、いじめに転化しないような周知が出来ているのだと思う。 ・情報交換の場やアンケートを生かし、全体でいじめ等の早期発見、対応ができていいるのは素晴らしいと思う。昨年同様、三者の評価がいずれも高く、信頼関係も強まっていると感じる。この信頼関係が未然防止、早期発見、対応にさらに生かされ、好循環が期待できると思う。 ・オンラインゲーム、インターネット等、保護者の見えないところでのいじめ等、子どもの行動・しぐさに注意したい。
		児童	相手の気持ちを考えて話したり行動したりできている	80	96			
		保護者	いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいると思う	80	97			
	学校行事、縦割り活動、「なかよしタイム」を通して、心の居場所づくり、絆づくりに取り組む	教職員	思いやりや感謝の心を積極的・計画的に指導している	90	100	・学校行事やなかよしタイムなど、異学年との関わりの様子をHPなどで発信していく中で、子どもの様子や学校の取組を知ることができたことが、保護者の数値上昇に反映されたものと考えられる。子どもの日頃の様子をよく観察すると、「ありがとう」という言葉が自然に出てこない子も少なくない。感謝する気持ちとそれを表現する態度を育てる必要がある。	・引き続き「なかよしタイム」で、ソーシャルスキルトレーニングを実施する。 ・各学級で朝の会や帰りの会に行っているスピーチタイムのお題に、「うれしかったこと」「感謝したいこと」というお題を取り入れ、感謝を表現するシチュエーションを日常的に設ける。それを根気よく継続することで、感謝の気持ちをもつことや感謝の気持ちを伝えることの定着を目指す。	・コロナ禍でも異学年交流が進められているのは良かった。ソーシャルスキルトレーニングの継続、スピーチでの課題を捉え「感謝したいこと」「うれしかったこと」を題材にする向上策は良いと思う。子ども達の「認め合う心」「自己肯定感」にさらにつながると良い。 ・思いやりを育てることは難しい。見えないもの、また、それを数値で表すのも難しいのかと思う。
		児童	思いやりや感謝の心が育っている	95	93▲			
		保護者	思いやりや感謝の心がよく育ってきていると思う	80	95			
開かれた学校・連携	ふるさとあわらに愛着心を持ち、ふるさとを大切にする子を育てるため、ゲストチャー、地域、学年間との連携をさらに深めた体験的学習に取り組む	教職員	ふるさとに愛着をもつ指導や活動に取り組んでいる	90	92	・これまで同様、教職員が意識し児童がふるさとがより好きになるよう事前学習や事後学習を行った。あわら市に関する絵画を描いたり、市紹介ビデオを作製したりした。いろいろな取り組みが数値と表れたと考える。児童が体験したり学んだりしたことをどのような手段・方法で振り返らせるか、さらに、それをどのように地域に発信していくかが課題である。	・引き続きふるさと学習の全体計画を見直す。ふるさと教育でどのような力をつけたいか、学年の系統性を重視した見直しをする。その中で地域活性化につながる体験をさせる、学校ホームページや公共施設などで積極的に発信することで「自分たちでまちを盛り上げていく」経験をさせる。	・目標は、達成されている。環境を愛するだけでなく、芦原は、どうやってできたのか、先人たちはどんな苦勞をして街を創ってきたのか。そして、今がある事を感謝することから「ふるさと愛とは何か」が理解でき始めると思う。学校での取り組みが自分たちの住んでいるまちの成り立ちを知るきっかけになったり、歴史を知るきっかけになったりすると嬉しい。自分たちの興味でまちの情報を掘っていくとまたまちの見え方が変わってきて、そして自分たちのまちを誇りに思うことができると思う。 ・生まれ育った地域に愛着心を持たせる事が大切である。子どもの頃から地元の行事に参加することでも愛着心が育つと思う。 ・「ふるさと学習」の取組は積み重ねることで確実に進化していると感じている。課題としている地域への発信の場として、今後も公民館を利用していただけると嬉しい。 ・新幹線開業、道の駅開業など、まちがどのように変わっていくのかを時間をかけ見て欲しい。 ・あわら市のことを知り愛着をもつことを今後も取り組みとして続けていただきたい。目標を達成することができている。
		児童	あわら市のことが好きになった	90	92			
		保護者	あわら市のことが好きになっていると思う	80	96			
	教育活動の公開を、新型コロナウィスの感染拡大状況や感染予防策を十分考慮したうえで行う 各種たより、ホームページ、緊急メールを活用し、丁寧な情報発信を行う	保護者	学校公開等により、子どもたちの様子がよく分かった	90	80▲	・コロナ禍を考慮した学校公開の行い方を考え直した。1家庭あたりの参観人数を増やす、受付方法を変更するなど行った。また、児童の活動については、新たにフェイスブックにて発信した。	・各種情報発信について再考する。特にお便りやホームページについては、「読みたくなる」「見たくなる」ものに再考する、各種お便りやホームページの内容について保護者のニーズを把握するためのアンケートを行う。また、その運営方法を含めた見直しをする。	・昨年より数値の向上が見られているが、アンケートで保護者のニーズを把握しよりよくしていくのはよい改善策である。今年度取り入れたFacebookでの発信も楽しく拝見している。withコロナも次の段階へと移行するようなので、開かれた学校の取組も変わるであろうし、保護者の方も楽しみにされていると思う。 ・PTA活動の『あしのいずみ』発行が年2回になっても、引き続き学校からの情報発信をしっかりとお願いしたい。 ・ホームページを時々見ているが、見たくなるような楽しさは不足していたように感じた。
		教職員	情報を迅速・正確に発信している	90	100	・ひき続きコロナ禍での情報発信について、その手段や方法を考えていく。		
		保護者	知りたい情報をよく知り得ることができた	90	87▲			